

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 自主自立の精神を培い、違いを認め合う豊かな人間性と確かな学力を身につけ、社会における個人のあり方を考えられる生徒を育てる。
- 1 「基礎学力の充実(土台作り)」 自ら学んで疑問を持ち、論理的に考える態度をはぐくむ、特色ある吹田東の「学び」を確立する。
 - 2 「勉強・部活動・行事をバランスよく」 安全で安心できる環境の中で、一人ひとりの生徒が活躍できる吹田東をめざす。
 - 3 「地域密着型の学校」 地域に根差し、家庭や大学等と連携して吹田東ならではの豊かな教育環境を築く。

2 中期的目標

新しい校舎を生かし、吹田東高校の組織的な教育活動をすすめる。それによって、高い自己肯定感に裏付けられた他者尊重の姿勢を持ちつつ、様々な事柄に疑問を持ち、自ら解決する姿勢と実現する力を持った生徒を育てる。

- 1 新学習指導要領による「主体的・対話的で深い学び」を実践する。授業形態の工夫や ICT 機器の効果的活用を行い、興味・関心をもてる授業、知識・技能が身についたと感じる授業を通して、生きて働く「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現等」の育成をめざす。
 - (1) 自ら学ぶ姿勢を育てる。そのために、指導と評価の年間計画(シラバス)を活用する。
 - (2) 資質・能力の育成につながるよう多面的・多角的な学習評価(観点別評価)の工夫を図る。
 - (3) 授業形態の工夫や ICT 機器を効果的に活用した授業実践を推進し、生徒の授業等への参加意欲を向上させる。
※授業への参加意欲を向上させることにより、生徒向け学校教育自己診断における「全体として授業に満足している」の肯定的回答(平成29年度57.7%、30年度53.2%、令和元年度60.7%)を、令和4年度には70%にする。
- 2 確かな学力や高い志等をもてる学習支援

生徒に応じた学習支援を行い、学習の成果を実感させ、やる気と達成感を持たせる。大学との連携をすすめる。

 - (1) 進学実績等で達成感を維持する。国公立大学、難関私立大学等希望進路の実現を図る。(進路実現率95%)
 - (2) 教科として講習の実施について年間計画を策定する。土曜講習の一環として青葉丘セミナー(大阪大学との連携セミナー:大阪大学生が補助で入り込み)を設定し、自学自習の助けとする(1、2年)。
※生徒向け学校教育自己診断における「先生の講習は役に立った。」の肯定的回答として令和4年度90%をめざす。(平成29年度91%、30年度83.4%、令和元年度84.2%)
 - (3) 外部テスト等の活用を行う。全国レベルの模擬試験を2年全員受検させる。
※論理的に考える態度を育むと共に、新しい大学選抜制度に合う取組みを検討する。また、3年次の進路指導において、模擬試験の結果を有効活用する。
 - (4) S講座(外部講師が本校で講習をする実力養成講習)を実施し、部活動との両立を図りつつ実力を養成する
 - (5) 成績不振者に対しても、平日や土曜に指名補習を教科で実施する。
※成績不振による原級留置者0名を目標とする。
 - (6) 図書室、自習室の利用促進を図る。
- 3 豊かでたくましい人間性のはぐくみをめざす。生徒が自信をもって社会に巣立つ学校づくり、自尊感情の育成・自己肯定感の醸成
 - (1) 基本的な生活習慣を確立させ、生徒相互にも気持ちを伝え合える環境づくりをめざす
あいさつ指導、遅刻指導、服装指導、ベル着指導(チャイムと同時に授業開始)をおこなう。
※積極的にあいさつ、声掛けを心がける。年間遅刻数(年間一人平均1.0回)以下を維持する。
 - (2) 社会で通用する人材を育成するため、様々な事柄に疑問を持ち、それを解決する力をつけさせる。そのため、3年間のLHRや総合的な探究の時間、授業を通して、主体的で深い学びが持てるよう検討を進める。
 - (3) 健康を適切に管理し、改善するための資質や能力を育成する。教育相談の充実と、課題を抱える生徒の個別の支援教育活動の充実を図る。
※「担任の先生は気軽に相談できる。担任の先生以外に、気軽に相談できる先生がいる。」の肯定的回答を令和4年度60%(平成29年度53.3%、30年度53.2%、令和元年度54.0%)をめざす。
 - (4) 学校生活を快適に過ごせるよう、新校舎の教室等の施設設備の充実を図る。
 - (5) 一人ひとりの生徒が活躍できる場面をつくる。
・特別活動を活性化させる。そのために、学校行事、学年行事、部活動を活用する。
・生徒委員会活動等を活性化させる。
※生徒向け学校教育自己診断における「クラスの活動に積極的に関わっている」「体育祭、文化祭などの生徒会活動に積極的に参加している」の肯定的回答について80%を維持する。(平成29年度65.5%、30年度69.2%、令和元年度82.3%)
- 4 開かれた学校づくりと広報活動等の充実
 - (1) 開かれた学校づくりとして、学校行事等の公開。地域及び地元幼小中学校、大学等との連携を進める。
 - (2) 本校の特色を活発に広報等する。
・ウェブページ、本校の学校紹介プレゼンテーション等を適宜更新するとともに、広報活動に力を入れる。
- 5 人材育成への取組
 - (1) 設立13年目を迎えるGUTS(若手塾)の取組みで経験の少ない教員の育成に力を入れる。
 - (2) 経験豊かな教員の知識等を、後進教員へ生かす取組みを実現し、ミドルリーダーの育成を図る。
 - (3) 働き方改革の推進を行い、教職員の健康を守ると共に、生徒と向き合う時間を増やす。(超過勤務時間の減少)
- 6 個人情報等の適正な管理
 - (1) 個人情報等の適正な管理を行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [令和 2年 12月実施分] | 学校運営協議会からの意見 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・昨年と比較し、生徒・保護者とも7割以上の項目で肯定的な回答が増加している。 ・今年度は感染症対策から地域や外部機関との対面形式の行事や取り組みが行えず、異文化理解や地域連携の肯定的回答は減少している。 ・「本校に進学してよかった」の肯定的回答は、生徒が大きく増加し85%を超えた。保護者は元々高かったが、さらに増加している。 ・昨年に引き続き、「施設・設備」についての満足度は高い結果となった。 ・進路指導についての肯定的回答が低学年を中心に増加した。 ・教職員の肯定回答率は1/3の項目で10%以上増加しているが、「問題意識や悩みなど気軽に相談し合える」等、肯定回答が8割に満たない項目がある。 | <p>第1回(令和2年7月16日～8月12日書面開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンスが好評なことは重要。校舎が新しくなって受験率もレベルも上がってきていると思うので、更なる有名校合格率などの高みをめざして頑張ってもらいたい。 ・青葉丘セミナーやS講座などの独自の取組がうまくいっているようなので結果に繋がって欲しい。 ・授業時間の確保のため、様々な行事が取り止めや合理化されているが、そうした中でも生徒たちが充実した高校生活を送れるように工夫をお願いしたい。 <p>第2回(令和2年11月19日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用やオンライン授業で生徒にどのくらいの学力をつけさせられるのかという議論が必要。 ・休校期間を補うために夏休みが短縮され、教材作成等で残業が増えるなど教員の負担が大きくなっていると思われる。 <p>第3回(令和3年1月18日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や自転車のマナーが以前より低下しているように思う。挨拶は教職員からも積極的におこなってほしい。 ・1人1台端末となると、教育の在り方も変わると思うのでしっかりと研究してほしい。 ・超過勤務の問題等、働き方改革を進めてほしい。 |

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|------------------------------------|---|--|--|---|
| 1 的・対話的 新学習指導要領による、「主体実践」の実践 | (1)自ら学ぶ姿勢を育てる (2)資質・能力の育成多面的・多角的な学習評価(観点別評価)の工夫 (3)生徒の授業等への参加意欲の向上 | (1)年度初めに、科目毎に作成したシラバスを提示し、内容、評価の仕方等を理解させ、学習に生かす。 (2)新学習指導要領の研究及び各教科科目の観点別評価の検討を行い、シラバスに反映させる。 (3)授業形態の工夫や、ICTの効果的な活用で、授業等への参加意欲を向上させる。 ・授業改善委員会を中心に、授業アンケート、授業観察シートを、授業改善に活用する。 ・ICTを活用した公開授業を、公開授業週間に全教科で実施する。ICT(電子黒板、プロジェクター、TV、ビデオ、書画カメラ、パソコン、タブレット等)を活用した教材開発とその共有化を進め、授業で活用する。 | (1)自己診断における、「シラバスは役立っている」の肯定的回答を、55%以上をめざす。(R1年度54.1%) (2)新学習指導要領によるカリキュラム編成を行い、シラバスに反映する。 (3)授業アンケートで、興味・関心、知識・技能の全体平均を、令和元年度(3.12)より向上。年度内でも向上させる・授業観察シートの活用度向上。・教員相互の授業見学実施率95%(R1年度97%) | (1)55.3%【○】 (2)新学習指導要領に向けた教科会議を経て、カリキュラム委員会で検討中【○】 (3)授業アンケート結果が飛躍的に向上。全体平均3.33(令和元年度3.23/過去5年間平均3.17) 興味・関心、知識・技能の平均3.21(令和元年度3.12/過去5年間平均3.06)【◎】 相互の授業見学後、授業観察シートの提出又は研究討議への参加を行った教員97%【◎】 |
| 2 確かな学力、高い志をもつ学習者支援 | 生徒に応じた学習支援を行い、学習の成果を実感させ、やる気と達成感を持たせる。大学との連携、外部資源の積極的な活用。 (1)進学実績等で達成感を維持させる (2)教科等での講習、自学自習の支援 (3)外部テスト等の活用、論理的思考の育成 (4)S講座を実施し、部活動との両立を図りつつ実力を養成する (5)成績不振者に対する指名補習の実施 (6)図書室、自習室等の利用促進 | (1)進学実績等で達成目標を設定する。3年間の進路指導計画を活用し、自宅での学習習慣の確立や講習への参加促進のため保護者との連携を強化する。・進路指導部が卒業生の進路状況を分析し、教職員全員参加の情報交換会を行う。 (2)年間通して土曜日、平日放課後、早朝の講習と夏期講習を実施する。青葉丘セミナー(大阪大学との連携セミナー:大阪大学生が補助で入り込み)を設定する。 (3)外部テスト活用を推進することにより、資格取得と学力向上への意欲喚起を行う。模試を全員受検し、進路意識を高める。また、論理的に考えるよう指導を行う。 (4)外部講師と協力して指導方針を策定し、効果を高める。講習参加者が最後まで継続できるようにする。 (5)指名補習を実施し、基礎的な力をつけさせ、単位の修得を図る。・単位修得に向けて休日の家庭学習の定着を図る。成績不振者は宿題等個別指導をする。 (6)図書室の蔵書を使って生徒が調べ・学ぶ授業を増やす。・生徒の心の糧となる読書をすすめる。自習室・少人数学習スペースの利用促進を図る。 | (1)国公立大学・難関私立大現役合格者数の維持(R1年度86名)・3年間の進路指導計画の効果的実施の実現。・学校生活実態調査や模試結果の有効活用を更に図る。 ・進路ガイダンス等の充実・授業以外の学習時間1時間以上の生徒増加(R1年度1年53.8%、2年43.8%、3年71.4%) (2)「先生の講習は役に立った。」の肯定的回答87%(R1年度84.2%) (3)英語検定受験者数の増加(R1年度120名) (4)欠席者に対して、出席喚起連絡する等支援を行う。欠席者数減。 (5)成績不振による原級留置者0人 (6)授業・総合の時間等での図書室利用。生徒図書委員による図書館借りの発行。自習室利用者維持(R1年度10名/日)、少人数学習スペースの活用状況 貸出冊数の増(R1年度貸出冊数1536冊) | (1)国公立大・難関市立大(関関同立・産近甲龍)現役合格者数173名(R186名)／同現役実合格者数90名(R163名)【◎】／「高校は進路に関する情報を知らせてくれる」86.1%(R1年度80.9%)／「進学説明会や見学会など大学と連携した活動を行っている」82.4%(R1年度71.4%)【◎】 ・授業以外の学習時間1時間以上の生徒(1年生67.9%2年生60.4%3年生77.5%)【◎】 (2)「講習は役に立った」87.7%【○】 (3)R2年度218名【◎】 (4)S講座の出席率87.5%(R1年度80.6%)1年生が大幅にUPした。【◎】 (5)原級留置者0人【◎】 (6)自習室利用17.0名/日【◎】貸出冊数1103冊【-】※コロナ禍により臨時休業期間が生じたため評価できず |
| 3 生徒が自尊感情の育成・自己肯定感の醸成 | (1)基本的生活習慣の確立、生徒相互が気持ちよく伝える環境づくり (2)社会で通用する人材を育成するためLHRや総合的な探究の時間の有効活用 (3)健康を適切に管理し、改善するための資質や能力の育成教育相談の充実と、課題を抱える生徒の個別の支援教育活動充実 (4)教室等の施設設備の充実と美化 (5)一人ひとりの生徒が活躍できる場面をつくる。・生徒委員会活動等の活性化 | (1)あいさつ、声掛けを行い、遅刻指導、服装指導、ベル着指導・遅刻者に対しては、段階的な指導を行う。 ・服装指導の高い評価を継続する取組み推進 (2)LHRや総合的な探究の時間で、志(こころざし)学に取り組む。特に人権尊重の取組み(LHR)、防災教育の取組み(避難訓練)、キャリア教育(進路ガイダンス)、健康教育(文化祭での発表等)を推進し生徒意識を高める。国際理解教育の一環として、校内語学研修を実施し、その成果を共有化する。 (3)検診時を、「健康教育の場」と捉え、事前事後指導を充実させる。教育相談について生徒に周知し、相談しやすい雰囲気をつくる。・高校生活支援カードの有効利用。・定期的な教育相談委員会の開催により、支援の必要な生徒を早期に把握し、適切な支援を行う。必要に応じて外部機関や専門家との連携を図る。 (4)定期的な大清掃と学校行事前の一斉清掃に取り組み、快適な学習環境を整える。清掃用具の整備を行い、生徒発信による美化意識を高め、美しい新校舎を保つ。 (5)学習活動を中心にすえた上で、学校行事・部活動に取組ませることで企画・運営力を育成し、達成感を持たせる。・クラブ代表者会議を通じて、生徒のリーダーを育てるとともに、部活動を活性化する。・生徒会を中心として、生徒委員会活動を活性化する。 | (1)年間遅刻数(年間一人平均1.0回以下)を維持(R1年度0.92回)。授業中の服装指導、ベル着指導の実施。 (2)人権HRを各学年3回(3年生は2回)以上、教職員向け研修を年間1回以上実施。それぞれの取組みの状況(感想文等)。 ・校内で英語語学研修を実施。希望者30名以上(R1年度25名参加)。 (3)検診結果から個別の保健指導を行う。特に歯科の追跡指導を年3回以上実施する。「担任に気軽に相談できる。担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」(R1年度54%)の肯定率を上げる。 (4)校内の清掃状況。清掃場所に応じた清掃用具の充実。 (5)「クラスの活動に積極的に関わっている」「体育祭、文化祭などの生徒会活動に積極的に参加している」の肯定的回答の維持(R1年度82.3%) ・新入生の部活動加入率80%以上の維持(R1年度90.0%)・生徒委員会活動の年間計画どおりの実施。 | (1)年間一人平均0.92回【○】 (2)・人権HR:予定通り実施。1学期は休業のためオンライン配信を使用。教職員向け人権研修:2回実施【○】 ・校内語学研修:希望者不足のため実施できず。代替として台湾の学校との英語WEB交流会を企画、15名参加【-】 (3)個別の保健指導実施中【○】 歯科の追跡指導3回【○】担任への相談72.6%(R1年度67.7%)担任外への相談57.6%(R1年度54.0%)【○】 (4)清掃活動【○】 (5)クラス活動への肯定的回答82.7%(R1年度82.3%)【○】 ・新入生の部活動加入率84.6%【○】 ・生徒保健委員会による学校保健研究発表大会出場(学校歯科医師会特別賞・学校薬剤師会特別賞を受賞)や生徒会執行部による広報活動(学校紹介動画作成)等の新規活動を実施【◎】 |
| 4 開かれた学校づくりと広報活動等の充実 | 「広報部」を中心とした開かれた学校づくり (1)学校行事等の公開、地域及び地元幼小中学校との連携 (2)本校の特色を活発に広報等する。 | (1)体育祭、文化祭等学校行事の公開・クリーンキャンペーン(地域清掃活動)などで、地域連携の活性化を図る。 ・中学校と公開授業等の交流を行って教員の授業力を向上させ、生徒の授業理解度を高める。・大阪大学等との連携を継続する。・地域教育協議会等に参加し、その行事への生徒の参加を促す。 (2)「広報部」を中心に、広報渉外等を教員全体で運営していく。・ウェブページで情報を発信する。在校生保護者への広報活動も充実させる。・学校説明会等で使用する本校紹介プレゼンテーションや学校紹介ビデオ等をさらに魅力あるようにバージョンアップする。・学校説明会等を通し、情報収集と広報を行う。 | (1)体育祭、文化祭等行事への地域からの参加状況・地域教育協議会等への参加の継続。地域と保護者との連携。 ・クリーンキャンペーンの実施状況。(地域との連携評価)地域からの評価 ・中学校公開授業への参加。 ・「吹田東高校のWebページ(ホームページ)をよく見る」の回答(R1年度保護者29.7%、生徒12.5%)を引き上げる。(2)中学校訪問、地域行事等での本校情報の発信状況 ・ウェブページの組織的更新、充実。更新回数月2回以上の維持。 | (1)感染症対策のため実施できず。体育祭、文化祭等行事への地域からの参加はなし、クリーンキャンペーン・中学校公開授業への参加は中止。【-】 ・「ホームページを見る」生徒13.3%・保護者37.4%【○】 (2)ウェブページの組織的更新、充実。更新回数、校長通信は平均週2回【◎】 |
| 5 人材育成への取組み | (1)経験の少ない教員の育成 (2)経験豊かな教員の知識等を、後進教員へ生かす取組み (3)働き方改革の推進 | (1)校内研修において、参加体験型の研修を中心に、今後直面するテーマを取り上げて、OJTを進める。 (2)GUTS(若手塾)等で、経験豊かな教員が研修講師を務める。公開授業等の実施。ミドルリーダー育成を図る。 (3)校内組織等の見直しを行い、教員の働き方改革を進め、教職員の健康を守ると共に、生徒と向き合う時間を増やす。 | (1)GUTS年間8回以上(R1年度8回) (2)ミドルリーダー等経験豊かな教員が、研修講師又は公開授業の実施などの機会を、年2回以上設定する。 (3)超過勤務の平均時間減、長時間勤務者の減少を図る。(R1年度33時間、長時間勤務者45名) | (1)GUTS年間8回実施。GUTSメンバーによるオンライン授業動画作成の校内研修を実施。【○】 (2)公開授業の実施2回、経験豊かな教員を講師とする校内研修3回実施【◎】 (3)月平均29.3h長時間勤務者39名【○】 |
| 6 情報の適正管理 | (1)個人情報情報の適正管理 | (1)個人情報情報の適正管理を行う。 | (1)個人情報管理表を基に、当年度廃棄分の適正処置実施。各部屋の当年度管理責任者を確認、引き継ぎを文書で実施する。 | (1)個人情報情報の流出等の事案が生じたが再発防止に向けて学校全体で対応【△】 |